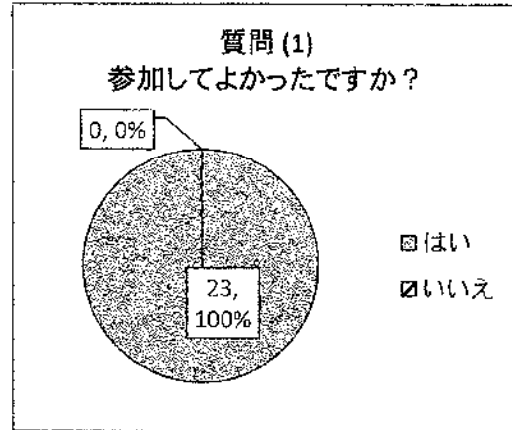
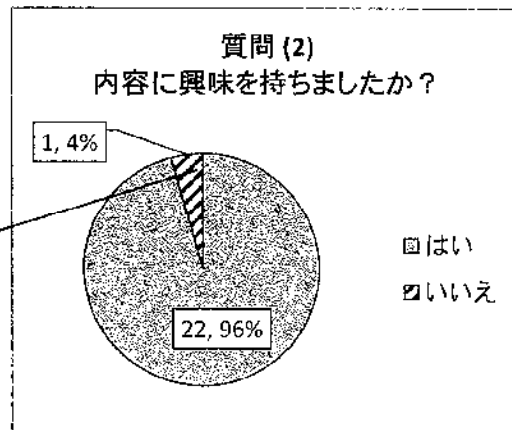


職場体験学習に関するアンケート集計結果

質問 (1)	数	%
参加してよかったですか？		
はい	23	100
いいえ	0	0
計	23	100

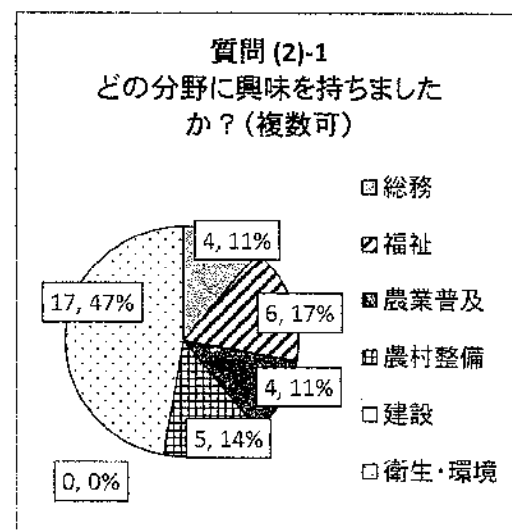


質問 (2)	数	%
内容に興味を持ちましたか？		
はい	22	96
いいえ	1	4
計	23	100

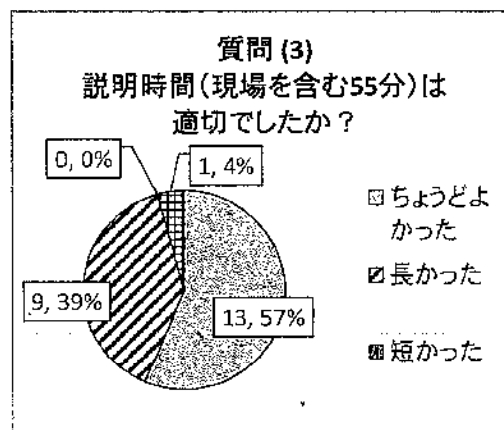


あまり興味がない。

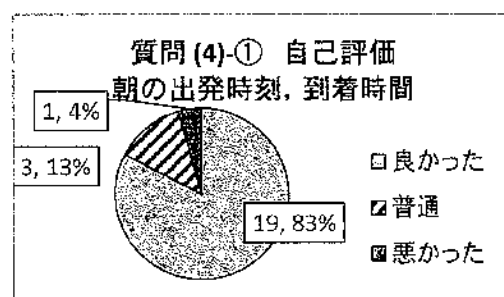
質問 (2)-1	数	%
「はい」と回答した方は、どの分野に興味を持ちましたか？ (複数可)		
総務	4	11
福祉	6	17
農業普及	4	11
農村整備	5	14
建設	0	0
衛生・環境	17	47
計	36	100



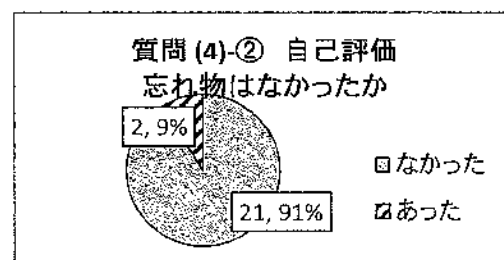
質問 (3)	数	%
説明時間(現場を含む55分)は適切でしたか?		
ちょうどよかった	13	57
長かった	9	39
短かった	0	0
無回答	1	4
計	23	100



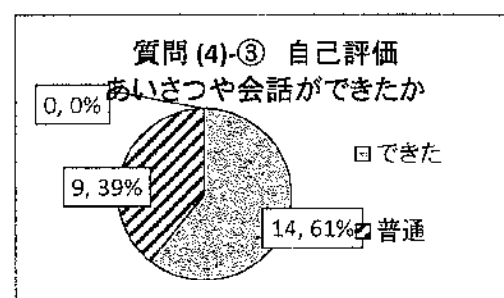
質問 (4)-① 自己評価	数	%
朝の出発時刻, 到着時間		
良かった	19	83
普通	3	13
悪かった	1	4
計	23	100



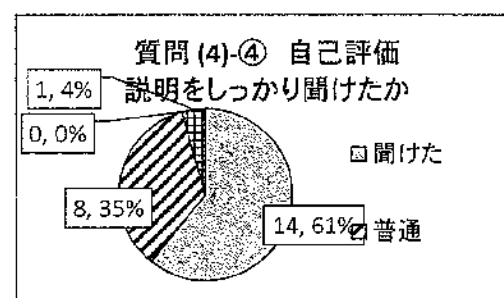
質問 (4)-② 自己評価	数	%
忘れ物はなかったか		
なかった	21	91
あった	2	9
計	23	100



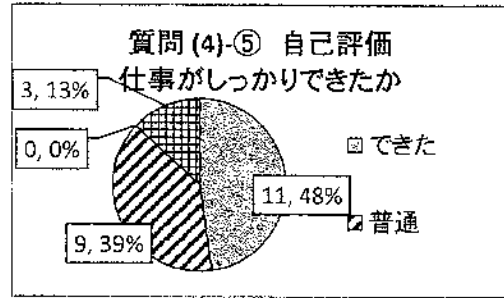
質問 (4)-③ 自己評価	数	%
あいさつや会話ができたか		
できた	14	61
普通	9	39
できなかった	0	0
計	23	100



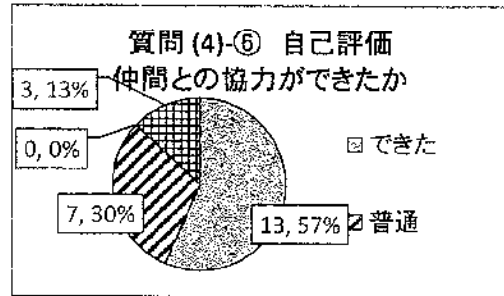
質問 (4)-④ 自己評価	数	%
説明をしっかりと聞いたか		
聞いた	14	61
普通	8	35
聞けなかった	0	0
無回答	1	4
計	23	100



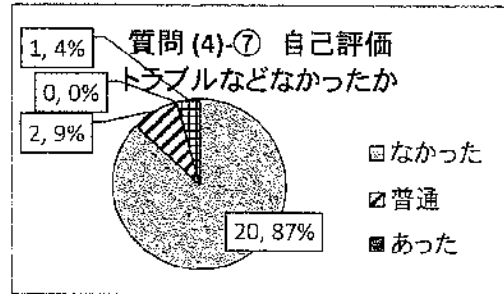
質問 (4)-⑤ 自己評価 説明内容を理解できたか	数	%
できた	11	48
普通	9	39
できなかった	0	0
無回答	3	13
計	23	100



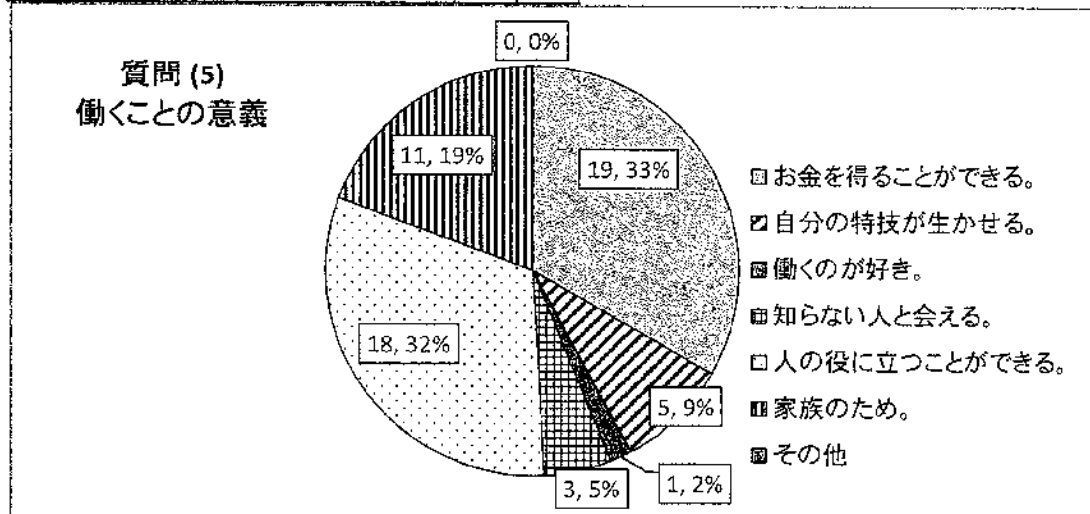
質問 (4)-⑥ 自己評価 仲間との協力ができたか	数	%
できた	13	57
普通	7	30
できなかった	0	0
無回答	3	13
計	23	100



質問 (4)-⑦ 自己評価 トラブルなどなかったか	数	%
なかった	20	87
普通	2	9
あった	0	0
無回答	1	4
計	23	100

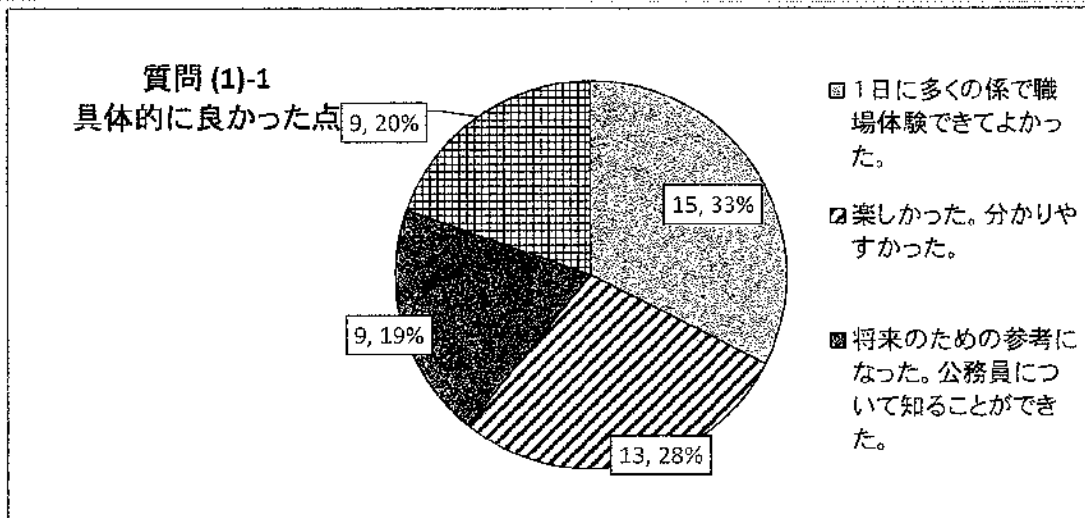


質問 (5) 働くことの意義	数	%
お金を得ることができる。	19	33
自分の特技が生かせる。	5	9
働くのが好き。	1	2
知らない人と会える。	3	5
人の役に立つことができる。	18	32
家族のため。	11	19
その他	0	0
計	57	100



～自由回答～

質問 (1)-1	数	%
具体的に良かった点		
1日に多くの係で職場体験できてよかった。	15	33
楽しかった。分かりやすかった。	13	28
将来のための参考になった。公務員について知ることができた。	9	20
〇〇(特定の業務)について知ることができた。	9	20
	46	100



- 質問(6)
困ったこと・わかりにくかったこと、改善が必要と思われる点
- 1 内容の難しさ
 - 2 話し方

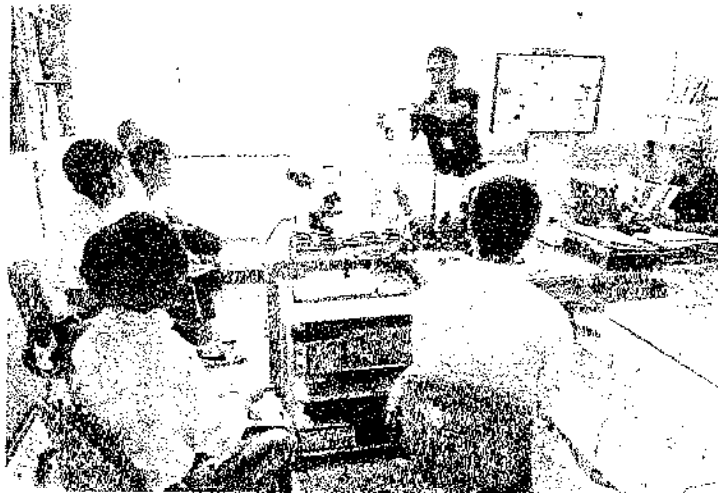
- 質問(7)
その他意見
- 1 福祉係が面白かった。
 - 2 現場見学が楽しかった。

島を知り、職業学ぶ

生徒が初の職場体験

県大島支庁
喜界事務所

喜界町の県立喜界高校（盛初弘校長）の商業科2年生22人は25日、県大島支庁喜界事



務所（柳田慶一所長）で職場体験を行った。喜界島のことを知り、現場で働く人の声を聞いて将来の職業選択を

考えた。勤労観・職業観を身に付け、実社会に対応できる社会人の育成が目的。喜界事務所

喜界事務所では職場体験し、農政普及係で説明を受ける喜界高校の生徒25日、喜界町

で実施したのは初めて。

鳥丸安敬獣医師（支庁保健福祉環境部衛生・環境室喜界駐在技術主査）が保健所の仕事や獣医師の仕事などを紹介した。島内で野良猫が増えて苦情が出てきていることに触れ、「不幸な猫を増やさないようにマナーを守ってほしい」と呼び掛けた。

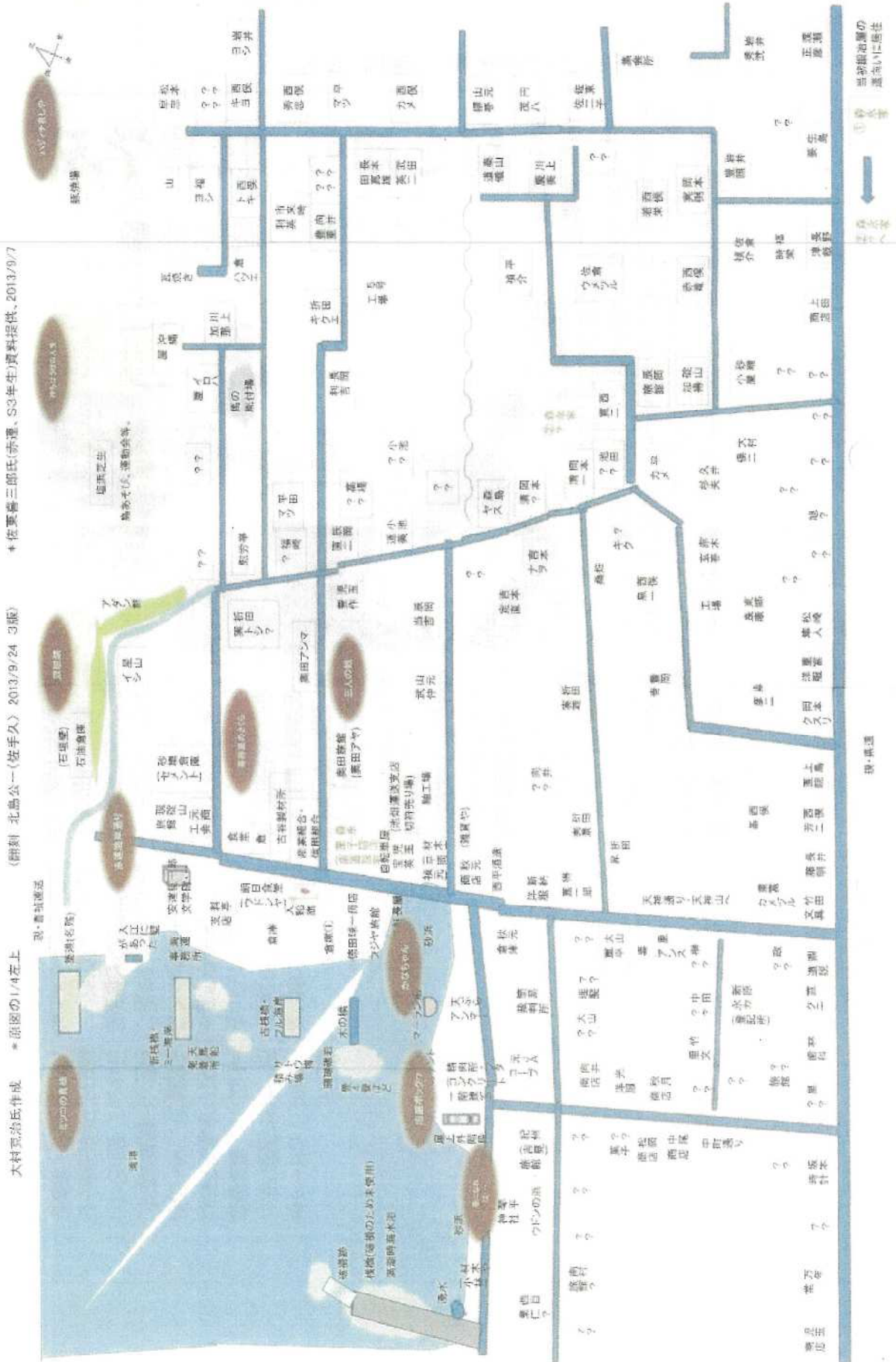
生徒は6班に分かれ、総務係、福祉係、農業普及係、農村整備係、建設係、衛生・環

境駐在からそれぞれ業務の説明を受けた。

農村整備係の職場体験で地下ダムを見学した渡辺千恵美さんは「高い技術を使い地下ダムを建設したことが分かった。小さな島なのにすごい」と驚いた様子だった。

柳田所長は「高校卒業後には島を出る子がほとんど。地元のことを知って愛着を持ち、今勉強していることを大切にして将来に役立ってほしい。喜界事務所にもまた勉強に来てください」とエールを送った。

昭和10~12年頃赤連地図



大村武治氏作成 * 原図の1/4程度上 (資料 北島公一(辻手久) 2013/9/24 3版) * 佐々木三郎氏(赤連、S3年生)資料提供、2013/9/7

※『安達征一郎「小さな島の小さな物語」の世界』から引用

現在の赤連海岸通り

①以前の船着き場

②インワリテージュが建てた石積倉庫

③安達文学碑・ベンチ

④イチリバー(一里鼻),美松旅館跡

⑤碓山旅館, 旧商工会

⑥チッコ(築港)

⑦K荘, きがねなし食堂

⑧折田旅館

⑨漁船係留場

⑩高校の先生の宿

⑪石積みの岸壁

⑫(当時の)秋元家石垣

⑬(当時の)秋元家正門

⑭天神通り

⑮赤連側の鳥居

⑯コンピラ様

⑰本町通り

⑱盛土造成地(駐車場)



①以前の船着き場



②イシワリテージュが建てた石積倉庫



③安達文学碑・ベンチ



④イチリバーナー(一里鼻),美松旅館跡



⑤碓山旅館, 旧商工会



⑥チッコー(築港)



⑦K荘, きがねなし食堂



⑧折田旅館(現在営業していない)





⑨漁船係留場



⑩高校の先生の下宿(この建物の裏側)



⑪石積み岸壁



⑪盛り土造成地(駐車場)



⑫(当時の)秋元家正門



⑬(当時の)秋元家石垣



⑭天神通り

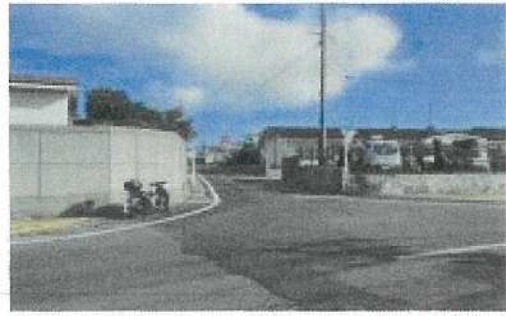


⑮赤連側の鳥居





⑩中通り



⑪本町通り



⑫コンピラ様



港屋旅館

安達征一郎略年譜

西暦(元号) 年齢	事 項
1926年(大正15年)	7月20日 父森永直徳, 母マスの次男として東京都荏原郡平塚町に生まれる。本名勝己。本籍地は鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋755番地。実家は同地で森永商店を経営し, 現在まで続いている。
1932年(昭和7年) 6歳	日本の不景気のため, 両親とともに奄美大島に帰り, 母の出身地の住用村戸玉に仮移住する。
1933年(昭和8年) 7歳	両親の喜界島移住によって, 赤連集落に住み, 地元の湾尋常高等小学校に入学。近くの糸満漁師たちと親しく交わり, 海や魚とりの話を聞く。赤連での漁師たちとの交流がのちに「日出ずる海 日沈む海」「祭りの海」「小さな島の小さな物語」に結集する。
1941年(昭和16年) 15歳	湾尋常小学校を卒業。汽船で神戸回りで上京。世田谷区の伯父の家に寄宿し, 出稼ぎ中の父と暮らし, 転入試験を受けて巣鴨商業に入学。大学受験を目指し神田の物理学校, 正則英語学校で学ぶ。この頃より, 現代作家の小説を耽読。
1945年(昭和20年) 19歳	敗戦を東京で迎える。作家修行を志し, 大学受験を諦め, 関西, 四国, 九州等を2年ほど放浪し, 小説の習作を続ける。生活費は闇商売などで得る。
1947年(昭和22年) 21歳	奄美大島に帰る。2,3仕事に就くが, 長続きせず, 本土行の機会を窺う。
1948年(昭和23年) 22歳	米軍占領下の奄美から, 宮崎県油津へ密航する。暫く土木作業員, 闇商売の予伝い等をしながら小説を書く。短編が県立図書館長で作家の中村地平の目にとまる。宮崎日日新聞社に入社。「高部鉄雄」の筆名で小説を書く傍ら, 同人誌「竜舌蘭」の再刊に尽力。神戸雄一, 黒木清次, 大野邦夫, 地村知里子, 金子光晴を知る。
1952年(昭和27年) 26歳	1月, 「憎しみの海」を「竜舌蘭」3号に発表。これが東京の作家木山捷平等数氏の認めるところとなり, 上京を決意。
1954年(昭和29年) 28歳	1月, 医師の松崎七美夫妻の仲立ちで地村知里子と式なしの結婚式を行う。8月, 「高部鉄雄」の名で「太陽狂想」を「群像」(8月号)に発表。
1955年(昭和30年) 29歳	奄美出身のロシア文学者昇曙夢を訪ね, 「太陽狂想」の批評を仰ぐ。
1956年(昭和31年) 30歳	山之口獏と佐藤春夫を訪問し, 作品の閲読を仰ぐ。以後数回, 佐藤宅を訪問。
1960年(昭和35年) 34歳	5月, 戯曲「見込み違い」を「裂果」4号に発表。吉村まさとしとの交友が始まる。この頃より, 生活を支えてきた妻知里子の結核悪化し, 入院。治療費を得るために会社を作る。創作に行き詰まり, 昭和41年まで断筆。

西暦(元号)年齢	事 項
1967年(昭和42年) 41歳	4月, 名占屋の妹嘉納美代子を頼って春日井市に移住。創作活動再開。
1969年(昭和44年) 43歳	3月, 第一創作集「太陽狂想・花蜜の村」を東海大学出版部より出版。
1972年(昭和47年) 46歳	丹羽文雄主宰の「文学者」に入る。丹羽文雄, 中村八朗, 新田次郎, 吉村明, 加藤秀, 成ヶ沢宏之進を知る。
1973年(昭和48年) 47歳	8月, 「怨の儀式」を「文学者」8月号に発表。第71回直木賞候補となる。秋, 当時法政大学生だった川村湊と桂木明德が, 青山の青苑荘を訪ねる。
1974年(昭和49年) 48歳	12月, 「怨の儀式 安達征一郎作品集」を, 三交社より出版。作井満, 佐々木国広を知る。この年奄美に帰り, 藤井令一, 進一男と会う。
1980年(昭和55年) 54歳	9月, 「日出づる海 日沈む海」を光風社より出版, 第80回直木賞候補となる。
1983年(昭和58年) 57歳	9月, 「てまひま船長の宝さがし」を偕成社より出版。以下シリーズ化, 全3作
1986年(昭和61年) 60歳	11月, 「月刊南島」(海風社発行)145号が「特集・海洋文学・安達征一郎の人と文学1」を組む(「1」のみ発行)。
1988年(昭和63年) 62歳	11月, 「少年探偵ハヤトとケン1」を偕成社より出版。以下シリーズ化 全10作
1995年(平成7年) 69歳	4月, 「榕樹(がじゅまる)」に「小さな島の小さな物語」(全10話)の連載始まる。第1回「赤連海岸通り」掲載。
2007年(平成19年) 81歳	3月, 「榕樹(がじゅまる)」に「ハジイチ哀しや」掲載。この作品で「小さな島の小さな物語」(全10話)完結。
2009年(平成21年) 83歳	2月, 妻知里子死去。5月, 『安達征一郎南島小説集 憎しみの海・怨の儀式』(川村湊編・解説)をインパクト出版会より出版。
2010年(平成22年) 84歳	11月28日, 少年期を過ごした赤連海岸通りに「安達征一郎文学碑」が建立され, その除幕式に宮崎より出席する。文学碑建立委員会のメンバーは, 委員長西島昭雄(湾尋常高等小学校同級生), 副委員長平田三郎(湾湾尋常高等小学校同級生), 事務局北島公一, 積山泰夫, 得本拓。除幕式で松下博文を知る。
2012年(平成24年) 86歳	九月, 「小さな島の小さな物語」をインパクト出版会より出版。表紙絵石田里沙。
2015年(平成27年) 88歳	6月1日, 心不全のため埼玉県所沢市の県中病院所沢で死去。

※ 『安達征一郎「小さな島の小さな物語」の世界』から引用